

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社 ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家 ぎふ		
所在地	岐阜市御望字天神951番地170 (電話) 058-230-9080		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年3月20日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

裏には小高い山があり、前方には養老山脈が一望できる住宅地の最上地に設置されたホームは自然に恵まれ、春夏秋冬の季節を肌で感じ、見慣れた風景を楽しみながら日々を過ごすことができる。「その人らしい暮らしを支える」理念の基に利用者が穏やかに暮らせる環境にも配慮し、地元採用で定着した経験豊かな職員が多い。住宅地の最上地に建設されているため、地域との交流は多少不便であるが、利用者と職員は家族のように過ごし、「核家族で育ちこの職場で教えて頂ける幸せ」「利用者は私たちの家族です」という職員の言葉にも表れているように良好な関係が築かれており、利用者の家族には安心につながっている。職員は気づいたことを申し送り時に詳細に話し合い、早め早めに対応することを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価の課題であった地域との連携は、職員の協力を得て地域行事に積極的に参加し、また、ホームの行事への参加を呼びかけた。回覧板や職員の知人から多くの地域の人へホームの現状・役割を知ってもらうことに努めた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	2ユニットとも自己評価は管理者と職員の共同作業で作成した。その自己評価を基に人為的な事故を防ぐために職員の連携を密にし、バリアフリーでない部分を利用し、リハビリを行う取り組みが実施された。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	前回までは運営推進会議がホーム外で開催されることが多かったが、ホームの利用者の日々の生活を見てもらえるよう会議の開催に工夫がされた。さらに今年度は、ホームの行事と運営推進会議を同日に開催するよう年間計画に取り入れられた。欠席委員には議事録を持って行き、報告をするなどの取り組みが行われている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	玄関に意見箱が用意され、利用者・家族・地域の意見を求めている。家族通信は2ヶ月に1回発行され、空欄にそれぞれの利用者の日常生活の気づきを個別に書き込んだりしている。運営推進会議などで出された意見も利用者の家族に報告している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームの立地条件から地域との交流は決して楽な状況ではないが、子ども110番の地域活動も担っている。ホーム便りを自治会に配布し、介護保険相談なども行っている。ホームを理解してもらう機会を多く持つため、清掃や運動会等地域の行事に参加している。ボランティアの募集もしている。

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 30 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 26 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	20 人	常勤 7 人, 非常勤 13 人, 常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物構造	重鉄骨及び木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間:入居3ヶ月以上)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	420 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 30 日 現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.8 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平野総合病院
---------	--------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、「その人がその人として、その人らしく生きるために支え続けることを使命とする」という介護サービスの基本を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者による暖かい字で書かれた理念は、ホームの玄関に掲げてあり、玄関で読み上げ日々の作業に付くよう確認している。居間、食堂にも掲示され、ミーティングにも読み上げており、ケアに実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地条件から地域との交流は楽ではないが、子ども110番の地域活動も担っている。ホーム便りを自治会に配布し、介護保険相談なども行っている。ホームを理解してもらう機会を多く持つため、清掃や運動会等地域の行事に参加し、ボランティアの募集もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	2ユニットとも自己評価は管理者と職員の共同作業で作成し、改善に努めている。外部評価の結果も玄関に置いてある。職員も外部評価を前向きにとらえ、外部評価を励みに、利用者のサービス向上に活かそうとする姿勢がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、家族・行政・地域包括支援センター・民生委員・自治会の参加を得、2ヶ月に1回開催されている。ホーム外の開催から来年度は行事を兼ねてホームで開催する計画がある。欠席委員には議事録を届けている。	○	運営推進会議は隔月に開催されているが、地域代表の出席率が悪いため、日程調整等に配慮されたい。来年度は、ホームで開催する計画があり、その実現に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の職員も参加し、介護保険の変更部分の説明・指導を受けており、何でも相談できる関係が構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用料等の支払いは銀行振り込みだが、預かり金等は家族が直接ホームに届けることになっている。金銭管理は適切に家族に面談で報告し、家族の都合が悪い場合は電話で報告している。通信の空欄に利用者の暮らしぶりを書き込み報告している。	○	利用者の家族は段差などを気にしており、ホームはその段差などをリハビリに活用するという、くいちがいが生じている。家族の来所時に、利用者の日常生活やリハビリ見学・記録等を基にできる限り交流を図り、ホームの考えを伝えられたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず家族の代表に出席してもらっている。訪問時に家族が気づいたことなども聴き、改善課題として反映している。玄関の意見箱も活用している。	○	家族の来所時には、できる限り時間を取り、家族の思いや意見の汲み取りが行えるようきめ細かな交流が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地元職員が多く、利用者とは元々馴染みの関係がある。14名の利用者であり、ユニット間の異動はある。この1年間は離職者はなく、新規採用が1名である。利用者ごとに担当者を決めており、担当者は利用者の特性を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の評価、面談を実施し、職員の希望を把握している。法人内での研修は実施している。段階に応じ研修に参加するよう情報の提供、勤務体制等に配慮しており、職員の研修に対する意欲も十分にある。	○	職員の意欲は高く、資格取得に対する希望も多い。外部研修を希望する職員のためにも、法人以外の行政等による研修を受ける機会を確保されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流は実施されているが、地域の同業者との交流はほとんど無い。行政主催の研修等に参加し、地域の同業者と共にグループホーム全体の向上を図るよう検討中である。	○	まず、運営者・管理者から、地域の同業者の交流をはじめ、ネットワークづくりや勉強会を開催し、地域全体のサービスの質の向上を図る取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に管理者と計画作成担当で家族と面談を行い、ホームについて納得いくまで説明をしている。体験入居を利用し、利用者達とも馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	玄関ホールなどに利用者と共に作り上げた作品が掲示されている。料理や買い物など献立についても意見をもらっている。家庭菜園を利用者と共に作り、栽培方法などを先輩として学ぶことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念の「人としてその人らしく暮らせる」を実践し、利用者の思いや希望を担当職員は把握し職員の連携を大切にしている。月例会議等に困難な場合を含めたケアの実施見直しなどを話し合い、利用者の思いを尊重した事前評価を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で利用者の状況や家族の意向を盛り込み、担当職員から利用者の状態を詳細に聴き取り、最適な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員制により、日頃の生活を把握しやすく、利用者本人に変化があれば即対応しており、利用者や家族とも話し合い、ケアについての新たな計画を作成し、注意深く関わっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ受診・往診付き添いなどの支援を行っている。外泊や外出に対しても対応し、利用者の買い物に同行することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より月2回の往診を受けている。通院が必要な利用者には、職員が通院介助を実施している。かかりつけ医の場合は、家族の協力を得て、通院には家族が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に備え、入居時に、特別養護老人ホームへの入所申込みを申請している。重度化が予想された場合は、家族・主治医と相談し、対応している。	○	入居時に特別養護老人ホームに申込みことが条件になっているが、重度化に向け、一定の基準を決め文書化が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族からの苦情を受けた時期もあり、職員はミーティングで話し合い、個人的なことは近くで小声で伝えるなど配慮をしている。個人情報も適正に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過去には業務を優先する場合もあったが、職員会議で利用者中心の運営に切り替えた。利用者の希望や依頼には最優先で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理番組を見たり、利用者と食事のメニューを相談したりして献立を決めることもある。家族からの差し入れも多く、誕生会などには希望に沿うメニューにしている。買い物、食事の準備、片付けなども共に行っている。食事の話題になると楽しい雰囲気になる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に4～5回提供しているが、曜日や時間はホームの都合に合わせている。利用者の希望に応えられるよう入浴日は多くしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や特技を活かし、家庭菜園での作業・食材の買い物・調理の手伝いなど利用者と共に行っている。書道・ちぎり絵作り、展示なども行い、楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する利用者には職員が同行している。多少坂道でもあり、希望者が少なくなることもあるが、職員のアイデアを募り、楽しい外出を企画している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないケアを実践している。職員が対応できない場合は安全上鍵をかける場合もあるが、その場合は短時間で開錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用の食料・水などは備蓄されている。防災訓練は消防署の立ち会いで実施している。スプリンクラーの設置工事も検討中であり、運営推進会議を火災訓練と兼ねて開催する計画もある。	○	火災訓練なども実施し、非常階段など整備されている。しかしながら、2階からの誘導は日常の訓練が必要であるため、日頃からの誘導についての話題と訓練、地域の協力体制が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個別記録に食事量・水分補給を記録している。個々の1日の食事量・水分は担当職員が把握している。	○	ホームの広報誌なども活用し、地域・家族等からカロリー計算等ができる人を求めるなど人材を確保し、時々、献立が栄養バランスよく、適切なカロリー摂取になっているかをチェックされたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間のバリアフリーでない場所を利用し、リハビリをする利用者もいるため、職員は見守りを行っている。日差しよけにはカーテンなども活用している。季節の花を飾り季節感を楽しむ工夫もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室の2種類があり、部屋は自分の好みで飾られている。介護度の高い人はベッドを持ち込む場合もある。使い慣れたタンス・テーブルなどを自宅からの持ち込み、居心地よい自分の時間を楽しんでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。